根室管内5市町の20年度予算案

普通建設事業費 8.1％減の110億

根室、羅臼2市町が伸び

【釧路発】根室管内5市町の2020年度一般会計予算案の普通建設事業費は総額で110億5400万円となっている。前年度比8・1％減。根室市と羅臼町が前年度を上回ったが、別海町が骨格編成による大幅減となったこともあり、全体では前年度を下回った。

大型工事では、中標津町、羅臼町で公営住宅建設を予定しているほか、根室市が仮称・ふるさと遊びの広場整備を計画。根室市が市役所庁舎建替に向けた実施設計や、羅臼町の一般廃棄物処理場の設計費なども盛り込まれた。

各市町の予算概要はつぎのとおり。

▼根室市

普通建設事業費は、27・8％増の23億2200万円。デジタル防災行政無線整備や仮称・ふるさと遊びの広場整備などの大型事業が全体を押し上げた。建設関係の新規事業では、市役所庁舎建替の実施設計費や花咲小移転改修の実施設計費などを盛り込んだ。

▼別海町

6月の町長選を控えた骨格編成で、普通建設事業費は、29・5％減の42億2900万円となった。主な事業をみると、特定防衛施設周辺整備調整交付金事業に1億8300万円を計上。うち、9400万円を道路事業に充て、別海旭町東団地2丁目線改良舗装などを行う。このほか、社会資本整備道路交付金事業に3億1900万円を措置し、橋梁長寿命化補修等、本別誘導線拡幅を行う。

▼中標津町

普通建設事業費は、19％減の20億5400万円。補正予算に普通建設事業費約10億円を盛り込んだことなどから、当初分については減少となった。

建設関係の主な事業をみると、東中団地2棟8戸の建築・工事監理に2億2500万円を措置。郊外路線整備には2億4030万円を充て、7路線の舗装補修を行う。

▼標津町

普通建設事業費は、36・7％減の11億1000万円となった。役場庁舎耐震等改修事業費が大幅に減ったことなどが減額の主な要因となっている。建設関係の主な事業をみると、川北東2号ほか5路線の整備に1億3500万円を措置したほか、川北西3号線の防雪柵設置に1億円を計上した。

▼羅臼町

普通建設事業費は約2・6倍となる13億3900万円。体育館耐震改修工事、公営住宅緑町団地2棟8戸建替などの大型事業により大幅増となった。このほか、標津町と共同で整備する次期一般廃棄物処理場に向け、設計費用として根室北部衛生組合への関連負担金を計上した。次期処理場は町内に整備する予定。

根室管内5市町の2020年度予算案

（金額単位・百万円）

	一般会計		普通建設事業費	
	予算総額	19年度比	予算総額	19年度比
根室市	19,135	108.5%	2,322	127.8%
別海町	17,996	91.8%	4,229	70.5%
中標津町	14,080	97.1%	2,054	81.0%
標津町	6,282	92.8%	1,110	63.3%
羅臼町	5,347	116.2%	1,339	264.8%
合計	62,840	99.5%	11,054	91.9%

※羅臼町は肉付補正後との比較

増毛町が特養「明和園」改築へ

21年度にも本工事着手

20年度は解体・設計費計上

【留萌発】増毛町は2020年度、町内の特別養護老人ホーム「明和園」改築に着手する。20年度予算案では実施設計のほか、現地改築に向けた用地を確保するため、現施設の一部解体費として1億420万円を計上。本工事への着手は21年度となる見込みで、22年度の供用開始を目指す。

明和園は1972年に竣工。供用開始から48年が経過し、施設の老朽化が進行している上、後年の施設規模拡大によって駐車場が手狭となっており、利用者や職員の駐車スペースが不足するなどの課題も抱えている。

これらを踏まえ、町は新年度予算案において明和園改築に向けた実施設計費として4920万円を計上。新施設については、2階建6000平方㍍程度の規模を想定している。また、改築場所について現施設の東側隣接地を予定していることから、支障となる養護施設の一部解体費に5500万円を措置した。

今後のスケジュールをみると、20年度は実施設計と並行して居室機能を担う現施設の一部を解体。21年度から単年または2ヵ年で本工事を行い、22年度中の供用開始を目指す。その後、現施設を解体し、解体後の用地を駐車場として整備する予定となっている。

8件減、2件発生

函館労基署2月末 建設業の労災状況

【函館発】函館労基署は、2020年2月末現在の業種別労働災害発生状況をまとめた。建設業では前年同期比8件減の2件が発生。内訳は、土木で1件、その他建設業で1件となっている。

全産業合計では、前年同期比5件減となる57件が発生。建設業の占める割合は3・5％となっている。

道会場 153人が難関突破

技術士第二次試験合格者

日本技術士会は6日、2019年度技術士第二次試験の最終合格者を発表した。

全国では総合技術監理を含む21部門合わせ、前年度より464人多い2819人が難関を突破。対受験者合格率は11・6％（前年度比2・5ポイント増）と6年ぶりに上昇した。

このうち建設部門の合格者は前年度より392人多い1278人となり、合格率は9・4％（同3・1ポイント増）と上昇した。

北海道会場分の合格者は技術部門129人、総合技術監理部門24人の計153人で、対受験者合格率は11・1％（前年度比4・7ポイント増）。例年受験者が多い建設部門は87人が難関をクリアした。

同会は文部科学省の指定機関として、国に代わり技術士試験の実施、登録等の業務を行っている。二次試験合格者が「技術士」の名称を使用するには、日本技術士会に登録申請する必要がある。

北海道会場分の合格者はつぎのとおり（敬称略、受験番号順）。

□ 技術部門

（総合技術監理を除く）

【機械】

▼機械設計

▽川島　圭太▽高橋　吉輝

【電気電子】

▼電力・エネルギーシステム

▽市瀬　泰広▽鈴木　章文

▼情報通信

▽壹岐　政人▽竹中　將剛

▼電気設備

▽大塚　太朗▽山口　大輔

【金属】

▼金属加工

▽戸羽　篤也

【建設】

▼土質及び基礎

▽中居　満穂▽工藤　忠

▽初山　雅敏▽岡本　彩加

▽波多野　雅浩▽岡﨑　修

▽櫻庭　均▽佐藤　慶人

▼鋼構造及びコンクリート

▽佐藤　之信▽柴田　知子

▽水口　哲夫▽津田　裕介

▽鈴木健太郎▽若杉　大介

▼都市及び地方計画

▽成田　優▽相沢　尚文

▽窪田　映子▽松山　和秀

▽杉本　一幸▽勝見　元暢

▽高橋　彩人

▼河川、砂防及び海岸・海洋

▽渡部　尚▽土田　健介

▽鳥本　博靖▽秋山　秀人

▽植村　郁彦▽裴　希恵

▽吉田　陵▽大坂　哲也

▽田宮　敏▽檜森　俊哉

▽旅家　洋孝▽大石　珠希

▽鈴木　裕哉▽澤田　公男

▽佃　知樹▽佐野　朝昭

▽吉村　岳▽梅澤　裕

▽川合　歩▽岡田　幸七

▽山崎　丈史▽宮島　滋近

▽工藤　得正▽山平　秀典

▼港湾及び空港

▽藤本　将行▽林　誉命

▼道路

▽小谷内　史義▽村上　学

▽竹内　尚宏▽本田　充只

▽菅原　治▽涌井　一憲

▽中藪　強▽白石　哲也

▽田渕　真祐▽小島　喬

▽松原　泰弘▽阿部　清一

▽難波　芳典▽山口　忠幸

▽蟹田　晃介▽原田　雄一

▽柿崎　直樹▽村上　正恵

▼鉄道

▽堀　道明▽椚座　邦朝

▼トンネル

▽牧原　雅和▽松村　謙治

▽桑田　充

▼施工計画、施工設備及び積算

▽金子　拓己▽渡邉　栄司

▽嘉屋　健司▽西山　正一

▽田口　一▽中田　直樹

▼建設環境

▽藤原　直▽助野　実樹郎

▽鈴木祐太郎▽佐々木裕子

▽仁田　智▽鈴木　竜次

▽矢野愛紗実▽門田　浩志

▽濱　幸枝▽布施　絵理

▽村上　弘樹

【上下水道】

▼上水道及び工業用水道

▽松崎　陽祐▽木本　邦彦

▽中山　耕太▽山田　博

▽伊藤　貴史

▼下水道

▽安房　修志▽手塚　宇宙

【衛生工学】

▼廃棄物・資源循環

▽平野　利明

▼建築物環境衛生管理

▽得永　覚

【農業】

▼農業・食品

▽佐々木康洋▽吉田　一慶

▼農業農村工学

▽佐藤　禎示▽有安　建也

▽関藤　博臣▽本保　利征

▽青木　謙治

【森林】

▼林業・林産

▽高梨　隆也▽古俣　寛隆

▽山本　哲也

▼森林土木

▽坂　文博▽鈴木　信明

▽岡本　哲志▽吉田　一雄

▽小原　淳一

【水産】

▼水産食品及び流通

▽守谷　圭介

▼水産土木

▽相原　正樹▽山内　功

【情報工学】

▼情報システム

▽下村　徹

【応用理学】

▼地質

▽久保　雅臣

【環境】

▼自然環境保全

▽中村　秀次▽荒　哲平

▼環境影響評価

▽紀國　聡▽平田　智子

□ 総合技術監理

▼建設―土質及び基礎

▽中田　正博▽前田　和宏

▽高橋　慶行▽長倉　健

▽門田　浩志▽大橋　考暁

▼建設―河川、砂防及び海岸・海洋

▽高貝　暢浩▽中野　洋一

▽岡部　博一▽木村　智文

▽傳甫　潤也▽小林　幹男

▽大村　宣明▽吉田　隆年

▽山平　秀典

▼建設―道路

▽田宮　敬士▽藤田　真仁

▽泉水　良之

▼建設―施工計画、施工設備及び積算

▽田口　伸吾▽永井　寿郎

▼建設―建設環境

▽森元　愛和▽鈴木　正裕

▼上下水道―上水道及び工業用水道

▽清野　広司

▼農業―農業農村工学

▽藤田　修

技術士 合格 おめでとうございます。

技術士・日本技術士会に関する
ご相談は下記北海道本部にどうぞ

技術士会 北海道 で検索

公益社団法人
日本技術士会
北海道本部
TEL：011-801-1617
e-mail：hkd-eng@ipej-hokkaido.jp